

**システム化計画立案のご支援**  
(あるべき姿に基づく業務要件定義とシステム化構想立案のご支援)

2004年2月23日作成  
第一版  
ソリューション・ラボ 横浜(株)

## 1. 今までこんな問題ありませんでしたか？

- (1)システムが稼働を開始したが、経営者から良い評価を得ていない  
経営者談 :経営に貢献するシステムになっていない！
- (2)システムが稼働を開始したが、利用部門から良い評価を得ていない  
利用部門談 :システムの機能が実務の実態にミートしていない！
- (3)システムが稼働を開始したが、業務とシステムの運用がなかなか定着しない

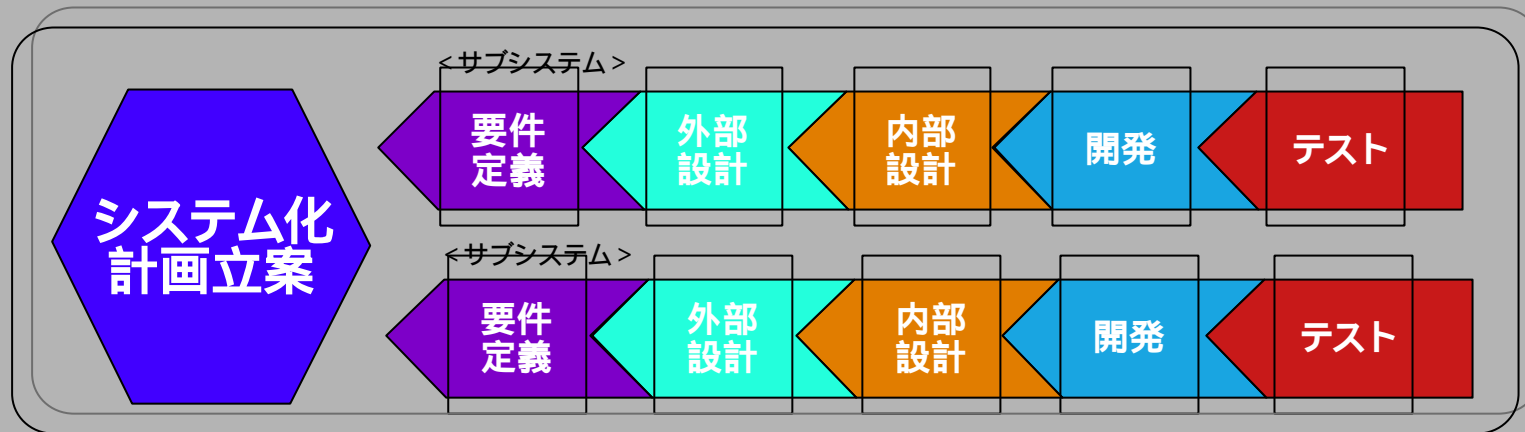


上記のような問題を解決する方法があります

- \*システム開発に先立って、経営と利用部門とシステム部門が一体となって社内コンセンサスを確立する場を設けます
- \*経営方針、経営目標を共有化し、業務プロセスの改善案を策定し新たな業務プロセスを支援するシステムの構想(基本要件、開発方針、開発計画)を立案します

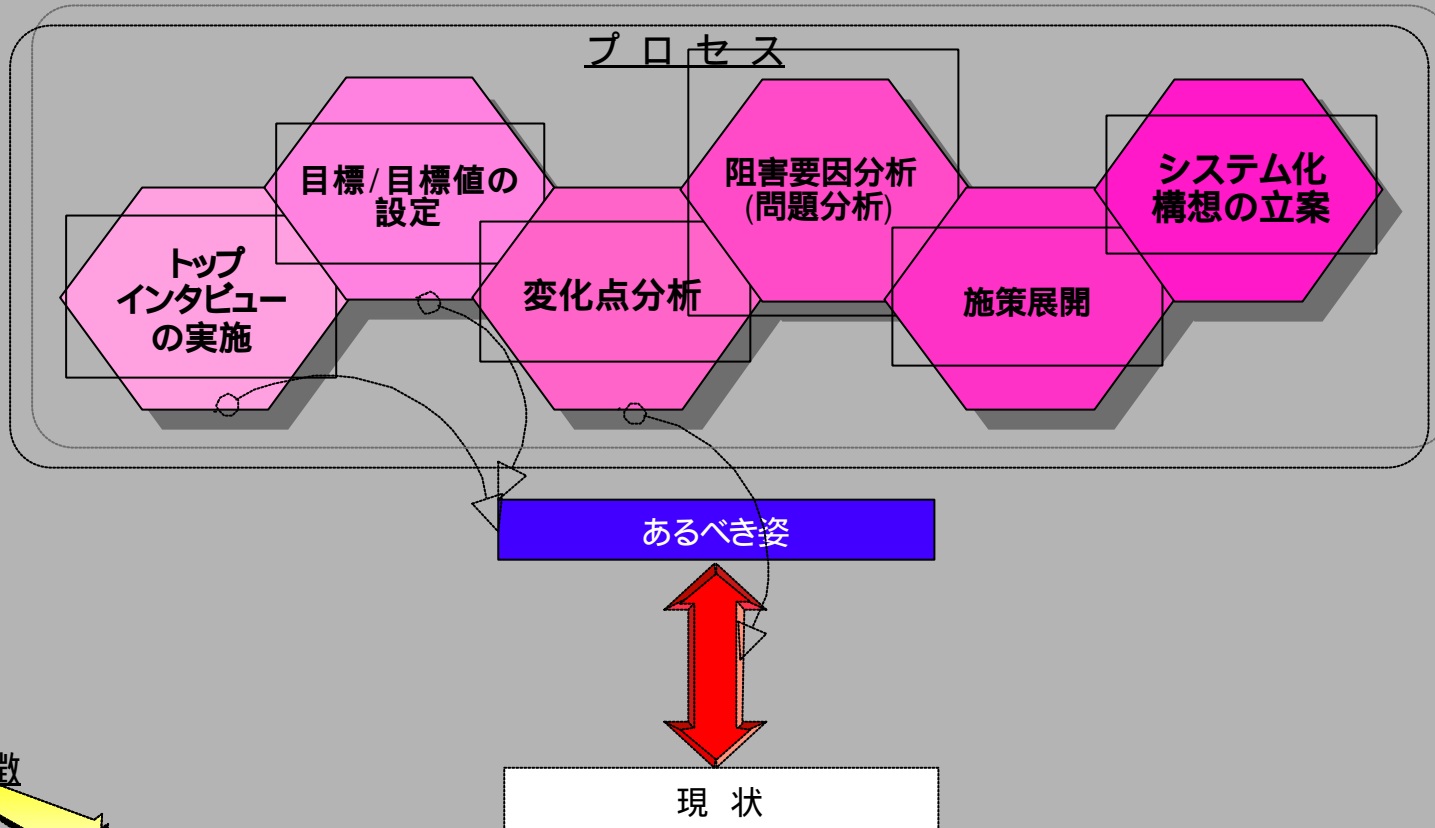
**それがシステム化計画立案です！**

## 2.システム化計画立案とは



- \* システム要件定義局面の前に位置付けされます
- \* システム要件を定義するための前提となる「業務の要件」を定義します
- \* サブシステム間の整合性を図るべく、全体の視点から基本的要件を定義します
- \* 実現性があり妥当性のある最適なシステム化構想を立案します
  - ・実現性があるとは？ ..無理のないシステム化構想(開発範囲、開発方針、開発スケジュール)を立案します
  - ・妥当性があるとは？ ..経営方針、経営目標実現するための要件を利用部門とシステム部門が共同で定義しま

### 3. システム化計画立案のプロセスと特徴

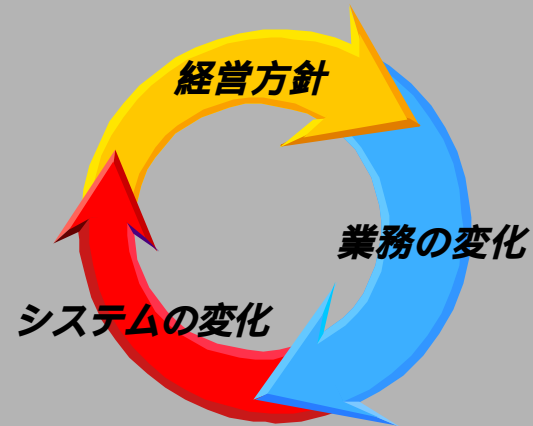


特徴

現状の問題点から原因を探求して解決先を導くアプローチではありません

将来の目標を実現するための「あるべき姿」を定義し、そこから業務改善施策とシステム施策を導き出します

## 4.システム化計画立案の期待効果



**システムを変えただけでは何も起こらない！**

システムが変化しても業務が変化しなければ、システムの変化を享受することはできない

**システムは業務を支援する道具でしかない！**

業務上の変化点を導き出し、その変化をサポートするためのシステムを構築する